

8 松河戸の神社仏閣

室町時代になると大きな荘園がくずれて、現在の村が起ころい始め、農民の自治組織が出来上がっていきます。

松河戸の白山神社、観音寺、昌福寺もこの頃創建されています。

- (1) 白山神社..... p212
- (2) 観音寺..... p218
- (3) 昌福寺..... p220
- (4) 佛法堂..... p222



松河戸文化科学探求隊
隊長 長谷川 浩
080-3657-7052
松河戸町の沿革ホームページ
<http://matsukawado.com/>

(1) 白山神社

創建は明らかではありませんが、白山神社再建の棟札に明応3年(1494)とあります。

祭神は菊理姫命、応神天皇、木花咲耶姫命、素戔鳴尊の四柱神です。

国による「1村1社合祀令」により、大正元年(1912)に、松河戸の15社の祠(島の神社9社とその境内社5社と御嶽社)を、白山社に合祀(4社)又は境内社(10社)とし、松河戸の「村社」白山神社になりました。

この境内にはそれぞれの祠が安置されています。

※ただし八ツ家島(東組)の辻天王社は、津島神社に合祀してから白山社に合祀された。

合併された後の旧社地は畑地として開墾し、年貢を取って神社の維持費としていましたが、終戦後、祟りがあるというので旧社地に小祠が建てられました。

各島から白山神社(氏神)までは距離があったので、島の人達の朝晩の参拝は、これら近くの小祠でおこなっていました。

旧社殿は昭和11年(1936)に建立されましたが、区画整理を見据え、現在の社殿は総工費7千万円かけ平成2年(1990)に立て替えられ、平成2年11月27日に「上棟式」、「もち投げ」、平成3年6月24日に「遷座祭」が行われ、平成3年6月30日に「竣工奉祝祭」、「稚児行列」が行われました。

参道のほぼ中間に新鳥居(第2鳥居)が出来たことで、鳥居が20年間2つありましたが、平成22年(2010)には神社境界が確定し、2千8百万円をかけて整備が行われて現在の形になり、平成23年5月完成奉告祭が行われました。



白山神社

写真令和3年



戦後、旧社地に小祠が建てられた。



平成2年11月27日「上棟式」もち投げ



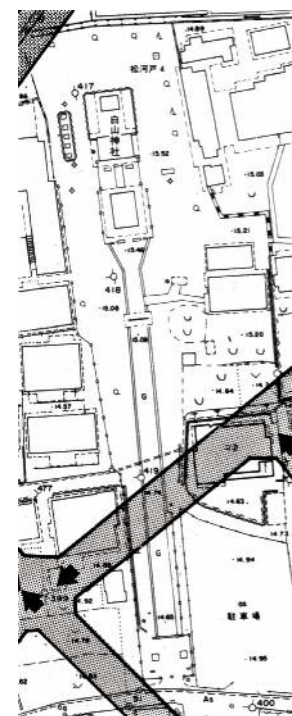
平成3年6月24日「遷座祭」



平成3年6月30日「稚児行列」後のお祓い



参道の中間にもう一つ鳥居ができています。
第2鳥居(現在の鳥居)



区画整理前の境内と計画道路

白山神社の年間祭事

	開催月日	行事名	内容	目的
年始の祭り	年の初めを祝い、今年の幸福を願う 宮中を始め全国で行われています。			
	12月31日～1月1日	元旦祭	初詣	氏神様に新年の挨拶をして、旧年の感謝と新年の幸を願掛け
	1月14日	左義長	どんど焼き	供物を焼き上げ新年の祈願をささげる (門松の煙にのって正月神が再び天に帰られる火祭り)
	3月中旬	きねんさい 祈年祭	としごいの祭り	町内安全祈願 (年の初め(立春)に、豊年満作を祈念する祭り)
夏祭り	身や心を清めて、高温多湿なこの時期に病気などにかからないよう健康を願う祭り			
	7月 祇園祭りの1週間前の日曜	天王始め うんか祭	町内厄除け祭り	悪霊が町内に入るのを防ぐ (稲の害虫駆除の虫送りである雲霞祭は平成9年度から)
	7月 小学校の夏休み初めの日曜	津島神社例大祭 (祇園祭)	(子ども獅子祭)	健康祈願、家族地域の安全 子どもの成長
	7月 祇園祭りの1週間後の日曜	提灯山	提灯祭り	天王さまへの奉納 (提灯を飾り天王様に奉納する)
秋祭り	収穫を感謝する祭り、今は大神様のご加護に感謝し、健康、安全、幸福、発展を願う祭り			
	10月16日(旧10月10日) 現在は10月の第2月曜日	秋祭り 白山神社例大祭	(豊年祭) (もち投げ)	収穫を祝い感謝、大神様のご加護に感謝
	11月2番目の卯の日 (11月13日～24日の日曜)	にいなめさい 新嘗祭	にいなめの祭り	町内安全祈願 (新穀を神にささげて収穫を感謝する)

※ 開催日は変更されることがあります。

主祭神 四柱神

合祀社 祭神	内容	御神徳
白山社 菊理姫命 (くくりひめのみこと)	石川県白山比咩神社の主祭神 縁結びの神、農業神、水神、山神、海神	縁結び、夫婦円満、開運招福、 五穀豊穡、
八幡社 応神天皇 (おうじんてんのう)	八幡神社の主祭神 武運の神、鎮守の神 (総本社は分県宇佐市の宇佐神宮)	勝利、頭脳
浅間社 木花咲耶姫命 (このはなさくやひめのみこと)	富士浅間神社の祭神 火の神、山の神、水の神、酒造の神	子受安産、子育ての神、火難消除、 農業等守護、家庭円満
津島社 素戔鳴尊 (すさのおのみこと)	国土経営を行う英雄人 武運の神、豊穡の神、学問の神	人々に幸運を授ける 疫病、厄難災除け

境内社(5社殿と御嶽社)

境内社(祭神)	御神徳	境内社(祭神)	御神徳
① 熊野社(イザナギノミコト)	再生、人の縁、願いを結ぶ神	⑤ 山神社(大山津見命) 宇賀社(倉稲魂神) 齋宮社(三狐神)	金運、子宝
神明社(天照大神)	国家安泰		穀物の神、福の神
② 市岐島社(市岐島姫命)	子守、水、芸能の神		厄除け開運
③ 小野社(道風武大明神)	書、勤勉の向上		
④ 愛宕社(軻遇突智神)	火伏・防火	御嶽社(御嶽大権現)	(山岳信仰 御嶽講)
龍神社(龍神)	防火、その家の富と命の守護神		

資料 松河戸白山神社氏子会、

※ 大正元年に国による1村1社合祀令により、松河戸の島の神社9社(境内社5社)と御嶽社の15社の祠を、白山社に合祀(4社)又は境内社(10社)とし集合して、白山社を白山神社(村社)となった。

ただし、八ツ家島(東組)の辻天王社は、津島神社に合祀してから白山社に合祀された。

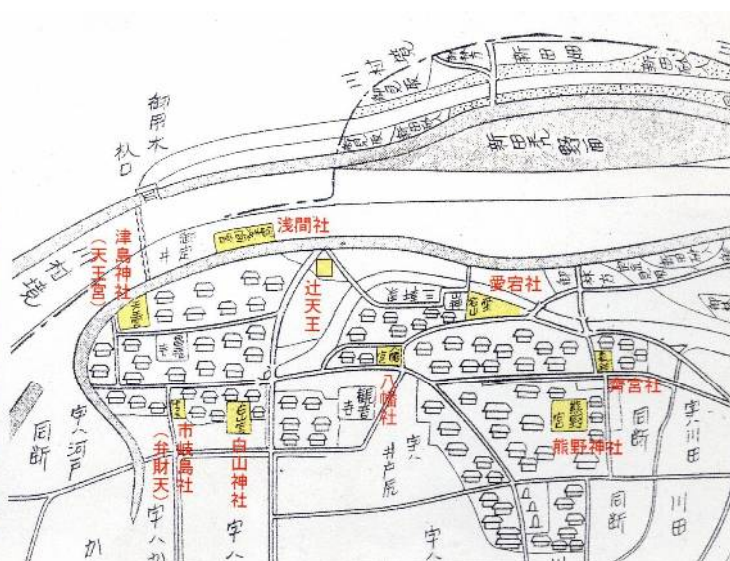
また、昌福寺境内にあった御嶽社は、白山神社の境内社(5社殿)とは別に、不浄除(目隠し門)の右側に御岳山を模した小山に設置した。

白山神社関連年表

時代	時代 年号(西暦)	ことがら	備考
室町 安土 桃山	明応3年(1494)	造立 戦前の棟札に奉造立と記載されていた。(棟札の所在不明)	
	元亀年中	(1570~1573)八ツ家島の八幡社の創立	
	天正年中	(1573~1592)道下島の浅間社の創立	
江戸	慶長年中 (1596~1615)	「尾張洵行記」には、境内除地及び燈明料の田が認められているものとして、白山祠以下6社があげられており、白山祠は慶長年中の建立とある。 川原島の齋宮社・愛宕社の創立、中島の熊野社の創立	
	慶長11年(1606)	再興 戦前の棟札に記載されていた。(棟札の所在不明) 道下島の天王社(津島社)創立	
	元和9年(1623)	再興 戦前の棟札に記載されていた。(棟札の所在不明)	
	享保2年(1717)	白山一王子神社修復 戦前の棟札に記載されていた。(棟札あり)	
	寛政4年(1794)	御神体木像(菊理姫命)造立	
	文化年間 (1804~1817)	「尾張洵行記」寛政4年(1792)~文政5年(1822)に6祠掲載されている。「白山祠」の名あり	
	天保12年(1840)	「松河戸村絵図」に各島の神社(9社)が記載されている。「白山宮」の名あり	
	明治	明治5年(1872)	白山社が村社に列せられる。
明治40年(1907)		白山社が供進指定される。	1村1社令
大正	大正元年(1912)	村内の神社を白山社に合祀又は境内社とする。村社に列せられる。	
	大正13年(1924)	神饌幣帛料供進指定(白山神社)	
昭和	昭和11年(1936)	白山社本殿建立(旧社) (棟札あり) ※昭和15年の本殿建立の棟札も存在する	
	昭和21年頃	大正元年白山神社に合祀された各島の旧社地に少祠か建てられる。 小野社は、小野小学校の奉安殿を社殿として元あった道風屋敷跡に戻す。	政教分離
	昭和26年(1951)	宗教法人法が制定施行され、昭和27年9月白山神社は神社本庁の包括下となる	宗教法人法制定
	昭和28年(1953)	5月 白山神社規則制定施行	
	昭和50年(1975)	白山神社祭文殿 末社修理 (棟札あり)	
平成	平成2年(1990)	上棟式、餅投げ 区画整理を見据え現在の社殿に建て替えられる。(本殿、祭文殿、拝殿、透垣門 再建)	
	平成3年(1991)	6月24日 遷座祭、6月30日 竣工奉祝祭、稚児行列	
	平成9年(1997)	「津島神社(天王社)」の小祠が境内社に移される。 「辻天王社」の小祠が撤収される。(八ツ家島東)	
	平成10年(1998)	「明神社」の御神体 本殿から境内社(熊野社)に移す。	
	平成12年(2000)	「齋宮社」「熊野社」の小祠が境内社に移される。	
	平成22年(2010)	道風公園の「小野社」のご神体が白山神社に遷座される	
	平成23年(2011)	区画整理で境内が整備され、完成奉告祭が行われる。	
	平成29年(2017)	今年度で氏子の島組織が終了する。	



▲熊野社



上記地図は、松河戸村絵図(天保12年(1840)から転記したもの)

○合祀又は境内社とした 14 社と御嶽社

大正元年に国による 1 村 1 社合祀令により、松河戸の島の神社 9 社(境内社 5 社)と御嶽社の 15 祠を白山社に合祀又は境内社とされ、白山社は白山神社(村社)となった。

島の神社	{	門田島の 白山社
		道下島の 津島神社 (天王宮)・ 浅間社
		中小路島の 市岐島社 (弁財天)
		八ツ家島の 八幡社 (同境内の 山神社 、 小野社) ※ 辻天王社 は道下島の 津島神社 (天王宮)と合祀
		中島の 熊野社 (同境内の 神明社 、 宇賀社)
		川原島の 愛宕社 (火防)(同境内の 龍神社)、段下の 斎宮社
		昌福寺境内の 御岳社

○白山神社再建の棟札(むねふだ)

現在所在不明、ただし、戦前の神社の記録に棟札の文字は残されている。

「奉造立一御前上肯明應參年甲寅三月六日敬白 大工山田莊上飯田藤原長久九郎兵衛 檀那庵実内道範浄金徳兵衛 近本弥七」

「奉再興上酉月一之王子願主敬白 慶長拾壹年丙午九月十五日」

「奉再興一王子 尾州東春日井郡柏井郷松河戸村敬白 大工藤原弥衛門 同茂左工門 社人丹羽源右工門 時二元和第九亥子(1)卯月十五日 本願 生田藤十郎」

裏面 矢野多左衛門 加藤善太郎 各々 檀那

註 (1)癸亥(1623)の誤りか。

- ①東春日井郡の文字は、棟札から転記する際に、記入者が誤って当時の郡名をかいたものとおもわれる。
- ②この記録から推測すると、明応、慶長、元和の古い棟札を新しく一枚の棟札の表と裏にまとめて書き直したものと考えられる。
- ③慶長と元和の棟札には、奉再興とあるが、明応の棟札には、奉造立とあるので白山社の創建を伝えるものと考えられる。
- ④この記録には「宝物 古代陶器高麗狛一對」とある。この狛犬は昭和の中頃まで、本殿前の廊下に安置されていた。

○菊理姫命の木造彩色立像(御神体)

厨子の底には「寛政四年 鎮座 子四月朔日社僧 昌福現住禪應代 造立」とあり、社僧(別当寺)の昌福寺住職禪應師の時に造立鎮座されたことがわかる。

御神像は背丈 20 センチほどの女神立像で、両手の掌を胸前で重ねた上に皿があり、その上にとぐろを巻き首を持ち上げた形の龍をいただく姿で、加賀白山大権現御神像によく似ている。

白山開山の泰澄大師が養老元年(717)に初めて白山に登り転法輪窟において 27 日間の祈念加持を勤めたところ、足下の翠ヶ池から巨大な龍が現れたという。龍の姿が消えると白衣綾羅の唐女のような女神が現れたので拝んでいると、十一面観世音菩薩のお姿になったと伝えられている。

当社の御神像は、この伝説に由来するものと考えられている。

○大正元年に白山社が村社(白山神社)となった由緒

村人の白山信仰からくるものではあるが、この地が、農業用水の供給に恩恵の大きい川のほとりにあり、遙かに白山を望むことができ、その白山比咩神社の祭神の「菊理姫命」^{くくりひめのみこと}を祭神として祀っている白山社(白山神を水神に見立てていた)は、大正元年当時すでに村の中心の神社だった。

白山社は、明治 5 年に村社に列せられており、明治 40 年に供進指定されているが、松河戸村から名古屋に出て成功した松河屋が、白山社氏神の社格昇級申請に際して多額の資金を提供したという。



▲初代(神木)オオバヤナギ(市保存樹)



▲2代(神木)タブノキ(本殿北面)(貴重保存樹)



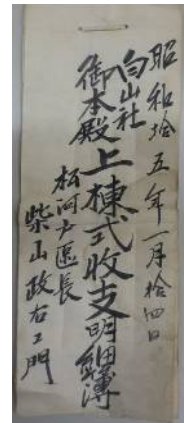
・上の写真は、昭和11年建立の旧本殿
・下の写真は、旧社殿の上棟式收支明細簿



▲平成13年 白山神社掃除



▲白山神社境内社(五社)



区画整理により、参道が半分の長さになる
ほぼ中間に新鳥居(神明系)がいできている。



▲白山神社の由緒石碑

力 石 の 由 来

当白山神社において、明治時代から昭和の初めにかけ村の多くの青年達が集まり、この石を肩までかつごうと互いに力を競い合ったものと伝えられています。重さは九十二キログラムあります。今では昔を偲ぶたいへん貴重な石で、水永く保存したいものです。由来については、氏子の皆さんからお聞きし、氏子総代でまとめました

平成十八年一月吉日
氏子一同

白 山 神 社

社格 十二等級 旧村社指定
鎮座地 春日井市松河戸町六六九番地

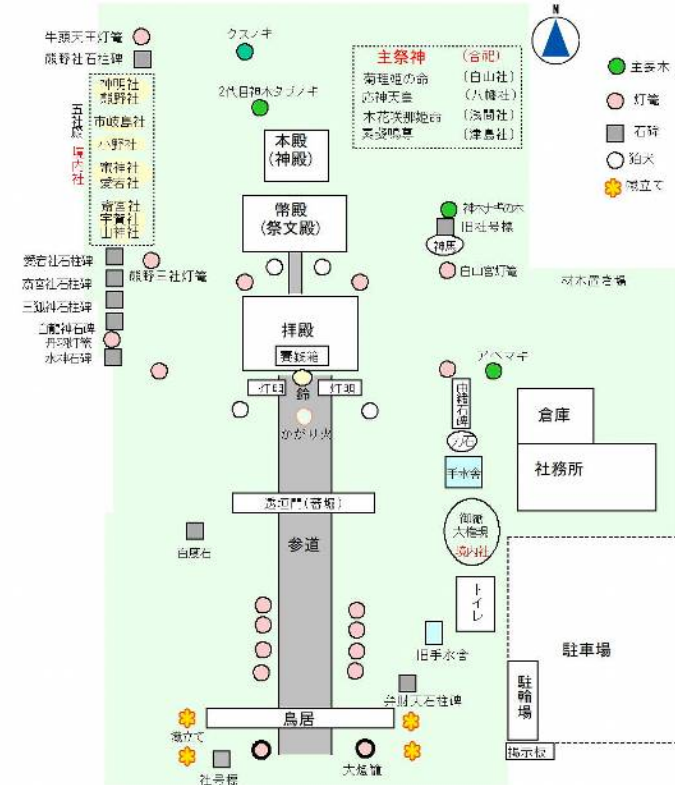
祭神 菊理姫の命
應神天皇
木花咲耶姫命
素戔鳴尊

例祭日 十月十日

山緒 創建等については明らかではない、明応三年(一四九四)の再建の折の棟札がある。この地は県指定史跡「小野道風生誕地」(八九四年生誕)があるように古くから開けた所である。

大正元年に村中の八幡社、愛宕社、熊野社、同境内社の、神明社、宇賀社、熊野の浅間社、津島神社、それに昌福寺境内の御嶽社、元八幡社境内社の山神社、小野社、段下の斎宮社、河戸の市岐島社を合祀した。しかし現況はその跡地に小祠を建て祭祀が行われている。現在の白山神社は、昭和十一年に建てられたものであるが老朽のため痛みが甚だしいので、今回神社地の一部を売却しその資金で本殿・祭文殿・拜殿・透垣門を総工費七千萬元で再建し境内を整備して平成三年(一九九一)六月に遷座祭を行う。

神社の境内図



白山神社由緒標

一、所在 鳥居松村大字松河戸
字河戸六百六拾九番地
鎮座

一、社格 村社 大正十三年九月二十六日
神饌幣帛料供進指定

一、祭神 菊理姫命
應神天皇
木花咲耶姫命
素戔嗚尊

一、合祀祭神 應神天皇
木花咲耶姫命
素戔嗚尊

一、由緒 社傳明カナラス大正元年九月
二十五日字村中千六百四番地鎮座
元無格社八幡社字河戸七百五十
六番地鎮座元無格社浅間社字
河戸七百四十五番地鎮座元無
格社津島神社尾ヲ合祀セリ

一、例祭 十月十六日

一、神境 参百九拾貳坪

昭和三年十一月 御大典記念

【参考】神社の社格

●平安時代に定められた社格

朝廷から幣帛(神への捧げ物)が奉獻される神社を「官社」といいますが、「延喜式」の神名帳にはその官社のリストが掲載されています。

延喜式に掲載されている神社の数は、2861社で、これらの神社は「式内社」とも呼ばれ、格式の高い神社とされ、神祇官の管轄である「官幣社」と、国司の管轄である「国幣社」に分けられ、それぞれ大社と小社にさらに分かれています。

延喜式に掲載されていない神社は「式外社」と呼ばれました。

●上記の国が定めた社格の他、それに類似するものが幾つかあります。

「一代一度大神宝奉獻」や「一宮」など

●近代社格制度

明治時代には、近代社格制度が整えられました。

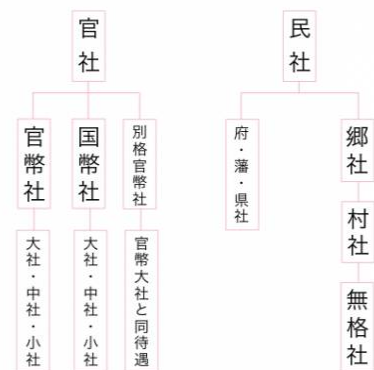
神社は「官社」と「民社」(または諸社という)に分けられました。

神祇官の管轄である官社は、更に「官幣」、「国幣」、「別格官幣社」(官幣の小社と同待遇)に分類されました。

地方官の管轄である「民社」は、「府・藩・県社」と「郷社」、「村社」、「無格社」に分類されました。

●現在は、昭和21年にGHQによる神道指令によって制度としては廃止されました。

【明治時代に定められた社格】



(2) 観音寺

巨嶽山観音寺(こがくさん かのんじ)といい、名古屋市守山区大永町曹洞宗大永寺の末寺です。寺伝によれば室町時代までは真言宗の寺でした。

(天正年間 1573~1591 年約 440 年前に曹洞宗に改宗)

天正年間に大永寺四世雲山在道大和尚(長久手の合戦の時、幾多の戦死者を葬った高德の増)^{うんざんぞんどうだいおしょう}が曹洞宗に改宗し、草創開山となり、現在の本尊「十一面観世音菩薩」を祀られました。

※ 十一面観世音菩薩 お顔が11ある観音様で、全ての方向を見守り、人々を苦しみからお救いください。

その後、宝暦年間(1751-1764)大永寺十七世靈臺和尚が法地に昇格させ法地再興開山となりました。

天明・寛政年間に本堂の再建、梵鐘の鋳造、天保・改化・嘉永年間に鐘楼堂新築、昭和 4 年に小野道風公の立像及び弁財天の立像建立、十五の森伝説に関する十五薬師如来像が衆寮堂に祭祀されています。

現在の本堂は平成元年に再建されました。昭和 62 年 9 月地鎮祭が行われ 63 年 7 月に工事が完了し、平成元年 5 月 3 日~4 日に落慶法要・式典が行われました。

なお、観音寺の門前には、十五の森の娘さんと娘さんの母の霊を慰めるために昭和 44 年 5 月、石の親子地藏尊が地元の有志によって建立されました。



観音寺の参道、山門



観音寺の宝物



新装になった本堂 昭和 63(1988)7 月完工



再建前の本堂 寛政6年(1794)6 月完工

本堂再建



落慶法要

盛大なお稚児のお練り・灌頂水を頂く。
平成元年5月3日



地鎮祭

本堂再建の地鎮祭 昭和62年9月3日

観音寺の年間行事(主なもの)

開催月日	行事名	内容
1月3日	・祈年大般若祈祷会	お釈迦さまが説かれたお経『大般若経』六百巻を転読することによって、『般若経』の空の教えを体得し、すべての苦厄を消しきって、内外の怨敵(おんてき)を退散させ、五穀豊穡や国家安寧を祈念し人びとを幸福生活にみちびいてゆくことを目的とした大法要です。
春分の日 (3月20日頃)	・春彼岸供養 (お天道迎え) ・戦没者慰霊供養	・彼岸(あの世)に通じやすい期間に、私たちがあの世のご先祖様に会いに行き供養するという意味があります。春分の日(3月20日頃)前後の7日間 ・町内戦没者の慰霊供養
4月8日	・降誕花まつり (こうたん)	お釈迦さまの誕生を祝う祭り(花まつり) (旧暦4月8日)
8月10日	・大施食会	盂蘭盆(うらぼん)の始めに、先祖の供養や餓鬼の供養など全ての仏様のために盛大に心を込めて供養する。曹洞宗では「施餓鬼」とは言わず「施食会」とも呼ぶ。
8月11~14日	・棚経	盂蘭盆(うらぼん) 祖先の冥福を祈る仏事。迎え火をたいて死者の霊を迎え、精霊棚を作って供物をそなえ、僧による棚経(僧侶が檀家に赴き、亡き人の霊を祀った精霊棚の前で読経し冥福を祈る。)をあげ、墓参りなどをし、精霊(先祖)を供養し火をたいて送る。
8月15日	・精霊供養	
秋分の日 (9月23日頃)	・秋彼岸供養	彼岸(あの世)に通じやすい期間に、私たちがあの世のご先祖様に会いに行き供養するという意味があります。 秋分の日(9月23日頃)の前後の7日間
文化の日(11月3日)	・道風祭	道風公の遺徳をしのび、書道上達・学業向上を祈願します。
11月8日	・十五薬師供養	御薬師様の縁日です。十五の森伝説に関する十五薬師如来像が衆寮堂に祭祀されており供養します。
12月16日	・秋葉祈祷会	秋葉山の祈祷 町内及び檀信徒の火難よけの祈祷をします。
12月31日	・除夜の鐘	鐘をついて人の心にある百八つの煩惱を祓います。

※ 開催日は変更されることがあります。

資料 観音寺資料

観音寺の本堂再建記念誌 平成元年8月発行

(3)昌福寺

徳雲山昌福寺(とくうんざん しょうふくじ)といい、宗派は曹洞宗で名古屋市守山区大永寺町大永寺の末寺です。

文禄元年(1592)徳雲という僧が開基され、最初は松河戸村字中小路の弁財天の境内に存在していました。

貞享年間(1684-1688)に大永寺十二世特州奇大和尚の開創によって大永寺末寺となりました。本尊は「薬師如来」です。



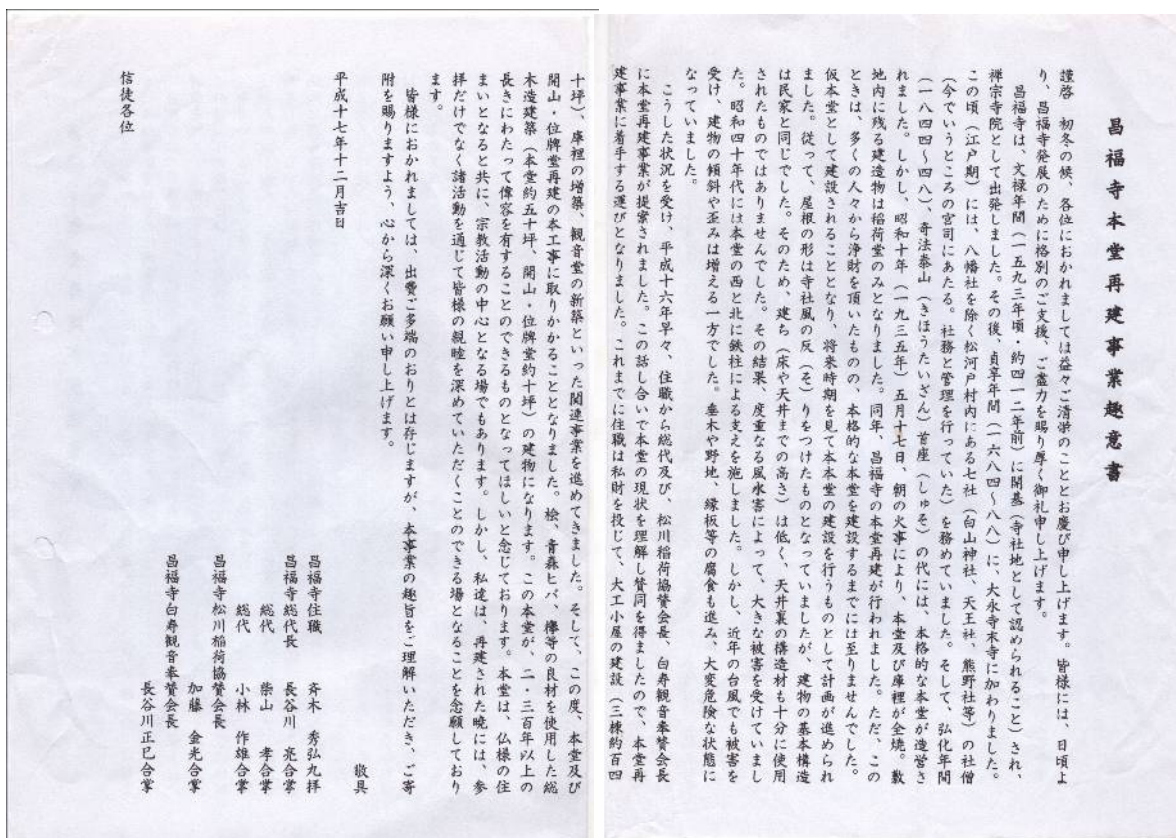
昌福寺 (新築前)

この頃(江戸期)には、松河戸村内にある白山社・天王社など7社(八幡社は除く)の社僧(今でいうところの宮司にあたり、社務と管理を行っていた)を務めていたので、村の祭りに行われた若者のお日待ちは昌福寺が宿となっていました。

安政年間(1859-1864)に法地開山となり、松河屋庄八氏の寄贈により稲荷堂が建立され、平成4年に増改築がされました。室内には子安地蔵尊も祀られています。

現在の本堂及び開山位牌堂・観音堂は平成20年12月6日に再建され、落慶法要が行われました。

昌福寺本堂再建事業趣意書



昌福寺の年間行事(主なもの)

開催月日	行事名	内容
1月1日	新年初参り	一年の幸せを祈願する。
1月上旬	白寿観音初供養会 新年大般若祈祷会	白寿観音の今年の初供養(今年一年間の健康を祈願する) 『大般若経』六百巻を転読する大法要(今年一年間の幸福を祈願する)
3月上旬	松川稲荷初午大祭	旧2月の初の午の日、京都の伏見稲荷大社の神が降りた日。昌福寺では1980年から始まった。
3月第3日曜日	釈尊涅槃会 (ねはんえ)	お釈迦さまが亡くなられた日 (旧2月15日) お釈迦さまの最期の様子を描いた「涅槃図」をかけて、そのご遺徳をしのぶ法要が行われる。
3月20日頃	彼岸供養会	彼岸(あの世)に通じやすい期間に、私たちがあの世のご先祖様に会いに行き供養する。春分の日(3月20日頃)前後の7日間
4月中旬	弘法さま	弘法大師(空海)が入定(命日)になられた日に、報恩謝徳の意を込めて「正御影供(しょうみえく)」という弘法大師の御影を祀って供養する行事。お菓子等が配られる。 (旧3月21日)
5月第3日曜日	釈尊降誕会(灌仏会) こうたんえ(かんぶつえ)	お釈迦さまの誕生を祝う祭り(花まつり) (旧4月8日)
8月11日	施餓鬼会 せがきえ	盂蘭盆(うらぼん)の始めに、先祖の供養や餓鬼の供養など全ての仏様のために盛大に心を込めて供養する。
8月12~14日	棚経	盂蘭盆(うらぼん) 祖先の冥福を祈る仏事。迎え火をたいて死者の霊を迎え、精霊棚を作って供物をして、僧による棚経(僧侶が檀家に赴き、霊を祀った精霊棚の前で読経し冥福を祈る。)をあげ、墓参りなどをし、精霊(先祖)を供養し火をたいて送る。
8月15日	精霊送り	
10月下旬(日曜日)	白寿観音大法要・祈願会	昌福寺に安置されている白寿観音の法要、祈願会
11月第4日曜日	本尊薬師如来会	本尊であるところの薬師如来の法要祈祷 (旧10月12日)

※ 開催日は変更されることがあります。

賛会	目的	内容
昌福寺白寿観音奉賛会	白寿観音の信仰普及	昌福寺に安置されている白寿観音の供養を行う。 大法要・祈願会(毎年10月)、月供養会(毎月第3日曜日)
松川稲荷協賛会	松川稲荷の信仰普及	昌福寺に安置されている松川稲荷の大祭を実施。 (旧2月の初の午の日、京都の伏見稲荷大社の神が降りた日)松川稲荷初午大祭は1980年から実施。

資料 昌福寺資料



平成20年12月6日に再建された本堂



稲荷堂

(4) 佛法堂

佛法堂は、名古屋市熱田区旗屋にある如来経の青大悲寺(御本元)の全国最初の末庵として明治 14 年に現地に創建されました。

庵主は御本元より派遣されており、昭和の中頃までは厳しい戒律と修業が行われていましたが、現在では週 1 回程度境内の整理をしています。



本堂

本尊は「釈迦如来」です。

如来経は、教祖喜之に享和 2 年(1802 年)宇宙を創造した如来様が使者として地上に遣わした金比羅大権現が乗り移り、死に至る文政 9 年(1826 年)まで他力に徹し、我が身を如来に預け、三世を見通した上、現世・後世の道理、成仏の要諦を説いた教派です。

以前は、曹洞宗法持寺の説教所鐵地藏堂などっていましたが、昭和 37 年から独立した宗教法人です。

2 月 15 日の「ねはん会」には「おはなきり」を、4 月 8 日の「灌仏会」には「おぶゆ」を施し、子どもたちにまで親しまれていました。



庭園



炊事場



茶室

資料 写真と図表で見る松河戸 松河戸誌研究会 平成 28 年発行から

松河戸文化科学探求隊

隊長 長谷川 浩

080-3657-7052

松河戸町の沿革ホームページ

<http://matsukawado.com/>